

# Re ちやりクル

代表者 廣安浩之（工学B 4年）  
構成員 辛島勸（工学B 4年） 角一正樹（工学B 4年） 鬼塚智也（理工M 1年）  
渡邊駿（理工M 1年） 佐藤宗史（工学B 4年）  
田中直（工学B 4年） 中村哲（工学B 4年）  
福嶋彬雅（工学B 4年） 柏木佑典（工学B 4年）  
青木征仁（工学B 4年） 下川慧士（工学B 2年）

## 1. 2011年度の活動内容

### ・自転車の貸出

5月18日（水）に第1回目の自転車貸出をした。当日は昼休憩の間に工学部福利厚生棟の横で自転車を並べ、ブースを作った。広報としてwebページや学内の掲示板で周知を図った。貸出す際に書類に連絡先や貸出期間などを記入してもらい、デポジットとして2000円を預かった。この日は4台の自転車を貸し出した。その後、貸出を希望する人には連絡をしてもらい貸出をしている。今年度貸し出した自転車は8台である。



自転車の貸し出しの様子

### ・自転車の修理

貸出を行った自転車がパンクした場合、貸出から1ヶ月以内であれば連絡をしてもらいエコファイターズが修理している。それ以降は付近の自転車屋を紹介し、修理に持つて行くように伝えている。また、回収した自転車のパンク修理やブレーキ調整を行った。

### ・自転車無料点検の実施

11月18日（金）に工学部で自転車無料点検を行った。宇都宮市自転車商組合の服部さんに協力をして頂き、チェーンの緩みやブレーキの調整、空気圧の点検をした。あいにく雨天だったため、点検台数は予想の30台を大きく下回り、12台という結果だった。点検に来た人には交通ルールや自転車のマナーをまとめたチラシを渡して、事故のないように乗ってもらうよう呼びかけた。私たちも今まで自転車を修理してきたが、プロの技を間近で見ることができいろいろ勉強となつた。



## 自転車無料点検の様子

### ・自転車の回収

2月から3月にかけて友人や研究室で卒業する人に声をかけ、まだ乗れる自転車を譲ってもらうようにお願いした。全体に呼びかけるポスターは作ったものの、今年度はほとんどの部員が卒業論文や就職活動で忙しかったため回収する自転車を絞ることにした。卒業生からは3月末現在で3台の自転車を譲ってもらえた。

### ・学内放置自転車の活用に向けて

大学内に放置してある自転車でまだ使える自転車はRe ちやりクルで使いたいと思い、10月下旬に工学部内の放置自転車を調査した。防犯登録番号、工学部登録番号、車体番号、色、タイヤサイズ、種別を記録した。記録した放置自転車は123台だった。その内、すぐに使える自転車やパンク修理すれば使える自転車を8台選んだ。工学部学生支援係にお願いをし、防犯登録や工学部の登録がある自転車の所有者を照会して頂いた。選んだ自転車以外の放置自転車は3月に学生支援係からの依頼で業者に撤去処分をしてもらった。選んだ自転車に関しては今後防犯登録の解除の手続きや修理をし、Re ちやりクルで活用する予定である。

### ・環境イベントへの参加

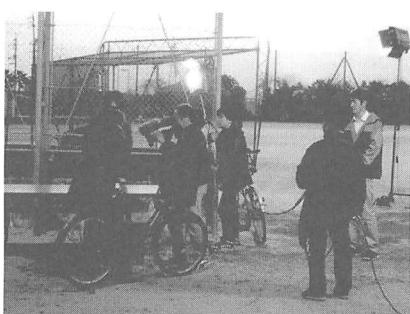
8月28日（日）にときわ公園湖水ホールで行われた「レインボ一大作戦 IN 宇部」に参加した。Re ちやりクルの活動紹介とエコファイターズが行っているリユース食器の貸出についてアピールを行った。

9月3日（土）に銀天プラザで行われた「まちなかエコ市場」に参加した。まちなかエコ市場では修理した自転車を一般向けに1台販売し、売上3000円は全額東日本大震災の義援金として日本赤十字社へ募金した。

10月29日（土）、30日（日）には、ときわ公園で行われた「エコフェア 2011」に出展した。出展内容は自転車のルールやマナーについてのクイズや、紙パックで宇都市の環境キャラクターのエコハちゃんを貼り絵で作る企画をした。当時はニュースで自転車のマナーについて取り上げられていたこともあり、一般の人の自転車への関心は高まっていたと思う。両日とも雨だったが、2日間で約70人のブース来場者があった。自転車を乗る上で左右確認や一時停止などの交通ルールを守ってもらいたいと呼びかけました。

### ・テレビ取材

3月21日（水）にNHKの「情報維新！やまぐち」に工学部のから生中継で出演した。Re ちやりクルのデジタルの仕組み、修理の様子などを紹介した。番組のエンディングには新入部員募集の呼びかけを行った。



テレビ取材の様子

## 2. 部員不足の問題

今年度は部員の大半が4年生以上であったことから、研究や卒業論文の作成に忙しく計画通りの活動はできなかった。構成員は12人だが、日常の活動に参加できたのは多くても3,4人だった。そのため、今後活動を続けていくためには新入部員の確保が不可欠である。なんとか新入部員を入れRe ちやりクルを継続させていきたいと考えている。